

LM corsa

60

OTGG
MOTORSPORTS

GT300



A.Iida



H.Yoshimoto

OTGG MOTORSPORTS × INGING MOTORSPORT

RESULT 25th

WEATHER 9日:晴れ/ドライ 10日:曇り/ドライ

ENTRY 29台 出走:27台

CAR SYNTIUM LMcorsa RC F

General comment



国内レースとして随一の人気を誇るAUTOBACS SUPER GTシリーズが、今年も岡山国際サーキットで幕を開けることとなった。LMcorsaにとって3シーズン目となる今年もGT300に飯田章と吉本大樹のコンビで挑み、昨年に引き続き「SYNTIUM LMcorsa RC F」を走らせる。国産第二のFIA-GT3車両として製作されたレクサスRC F GT3は、シーズン中に自由な改造が許されないことから、昨年は厳しい戦いを強いられたものの、今年は小範囲ではあるがアップデートされたことで、躍進が大いに期待されていた。

だが、シーズンインを前にして岡山国際サーキット、富士スピードウェイで行われた公式テストでは相次いでトラブルに見舞われてしまう。もちろん、オフのトラブルシューティングは重要なこと。各部に対策を施し、サーキット入りすることとなった。

例年どおり走行開始は土曜日から。予選に先駆けて午前に行われる公式練習では、最初に飯田がドライブすることとなった。早朝の路面はまだダスティであるため、計測開始からしばらくはピットでステイ。コンディションが整ってきたのを確認したところで、ピットを離れていく。大きなトラブルに見舞われることがなかったことから、飯田は周回を重ねていき、1分29秒038をマーク。そして1時間を経過したところか



ら吉本が走行し、1分31秒058を記録する。25番手ではあったものの、1時間35分間のセッションでトータル25周をしっかりと走り切れたことで、ドライバーのみならずスタッフの誰もが、安堵の表情を見せていた。

予選結果

 26th (1'29"257)


予選はノックアウト方式で行われ、GT500とGT300がそれぞれ15分間のQ1を走行し、GT300では従来より1台増の上位14台が、続く12分間のQ2に進出を許される。まずQ1に挑んだのは飯田である。チームによって判断は分かれるが、セッション後半の方がタイヤの



ラバーが路面に乗って、グリップは向上する。しかし、その一方で前半にコースアウトするマシンが続出すれば、逆にコンディションは悪化するし、万が一赤旗でも出れば、アタックの機会は減少してしまう。チームが選択したのは後半のアタックだったが、幸い路面状態はキープされたままだった。

計測開始から7分間を経過したところで、飯田は走行開始。1周をウォームアップに充てて、いよいよ「SYNTIUM LMcorsa RC F」がコースを攻め立てることとなる。まずは1分29秒647をマークし、終了間際のアタックでは28秒台入りの期待がかかったのだが……。しかし記録されたのは29秒252で、公式練習のタイムさえ上回れず。どうやら日差しが強くなって、温度が急激に高まったのが原因のようだ。26番手に留まり、Q2に控えていた吉本に、ドライブの機会は与えられずに終わった。



決勝結果 25th (74 laps)



「SYNTIUM LMcorsa RC F」にとって、デビュー戦となった昨年の決勝当日は、早朝まで降り続いた雨の影響でウェットコンディションからのスタートとなったが、今年はどうやら雨に見舞われる心配は一切なさそう。

早朝にはフリー走行が行われ、決勝レース想定の設定が施された「SYNTIUM LMcorsa RC F」を飯田がまずはドライブ。途中二回も赤旗が出される波乱もあったが、混乱に陥ることなく1分32秒222をマークした後、吉本にステアリングを託す。そして、32秒379を記した後、30秒410に入れたところでチェッカーが振られることとなった。

スタート進行のスタートと同時に8分間のウォームアップが行われ、スタートを担当する飯田による最終チェックが完了したところで「SYNTIUM LMcorsa RC F」は、いったんピットに戻った後、グリッドに並べられる。見渡せば、スタンドは超満員。サーキット全体を、



19000人も観客が包み込んでいた。今さらながらにSUPER GTの高い人気を示す光景だった。そして、岡山県警の白バイの先導によるパレードラップが行われた後、いよいよ激戦の火ぶたが切られることとなる。

一台がピットスタートを強いられていたことで、ひとつ順位を上げた飯田は、2周目にも一台を、さらに4周目にも一台を抜いてくる。さらに10周目にはドライビングスルーペナルティを課せられた車両があり、22番手にまで浮上。だが、この頃をピークに順位は徐々に下がっていき、ほぼレースの折り返しとなる37周目に吉本と交代することとなる。

それでもふたりは必死に「SYNTIUM LMcorsa RC F」をなだめすかして走行し続け……。

トップから2周遅れではあったが、しっかりとチェッカーを受けて完走。25番手に留まりはしたものの、しっかりとデータとマイレージを稼ぐことができた。これを今後活かせることが期待される。次のレースは、ゴールデンウィークの富士スピードウェイが舞台だ。



Director's comment



チーム監督

小林 敬一

Keiichi
Kobayashi<http://www.koba-pla.net/>

何とかレースを完走できた結果、新たな問題点がいろいろ出てきて、その意味では収穫もありました。これをどう洗い出して、どう対処できるか。FIA-GT3ということもあって、メーカーの協力なくしてはできないことなので、今後しっかり相談しなくてはならないと思います。ただ、僕たちスタッフのモチベーションは下がっていません。ドライバーはしんどいでしょうけど……。メーカーとも相談しながら、何とか。僕たちの準備はできています。

Driver's comment 1



ドライバー

飯田 章

Akira
Iida<http://akira.jp/>

とりあえず完走できて良かったです。今年はさらに厳しいシーズンになりそうで、目の前の現状を理解し、目いっぱいやっていくしかないのですが、みんなの気持ちや明かりが消えないよう頑張りますので、応援よろしくお願いします。

Driver's comment 2



ドライバー

吉本 大樹

Hiroki
Yoshimoto<http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

メカニックが一生懸命頑張ってくれているのに、ちゃんと結果を求めて走れないのは悔しいです。ただ、オフのテストがトラブル続きで、まともに走れなかったのが、レースウィークを通じて大きなトラブルなく走れたことは、良かったと思います。

